

歌詞分析から考察する乃木坂 46 像

稲木勇太郎

本稿は、現在の日本で最も人気のある女性アイドルグループである乃木坂 46 の歌詞を分析することで、乃木坂 46 像を浮かび上がらせ、そこに投影された社会の興味関心を明らかにしようとするものである。ヒットソングに関する先行研究において、森(2010)では一人称や二人称がよく使われるということがいわれ、左古(2015)では恋愛についてよく表現されているということがわかっている。しかし、乃木坂 46 の全楽曲を対象とした研究はあまり見られない。本研究では乃木坂 46 の歌詞をテキストデータとして集め、テキストマイニングのフリー・ソフトウェア KH Coder を用いて研究を行った。

研究の結果、乃木坂 46 の歌詞の特徴として、「僕」や「君」などの代名詞が多く使われていること、恋愛をよく表現していること、夢についても表現されていること、楽曲のジャンルごとの特徴もあることがわかった。これらの結果から、乃木坂 46 は「恋愛や夢を歌う王道アイドルであり幾つもの顔を持つ深みあるグループということである」と結論づけた。さらに、この乃木坂 46 像から導き出せる社会の姿として、人々の求めるものは変わらないということ、恋愛への関心が強いということ、新しいものに惹かれやすいという 3 点を指摘した。しかし、AKB48 の表題曲でも同様の分析を行った結果、類似した結果が得られた。つまり歌詞だけでは明確な定義がしにくかった。よって、他の歌手でも全楽曲で分析を行ったり、楽曲の他の要素にも着目したりするなど今後の課題も明らかになった。